

江戸時代の

人口〈2〉

ふるさと御所 歴史探訪

先月号では、「宗門改帳」による人口集計で、江戸時代の中期以降は、人口の大きな変化はなかったと書きまし

た。御所町には、全人口がわかる宗門改帳関係の史料が、24年分あります。宗門改帳が揃っていないなくても、「宗門改五冊分寄帳」「家数人数寄書帳」等があるのです。それらのうち10年分を表1に示します。宝暦2年(1752)には、下男・下女が280人含まれていますので、他の年と同じ基準では2千890人です。

表には、1軒の人数を計算しています。これについては後述しますが、全ての年で4人未満です。なお、宗派別、持家・借家の別等の詳しいデータは、

表1 御所町の家数および人数

元号	西暦	家数	人数			1軒の人数
			男	女	計	
宝暦2年	1752	882	1,539	1,631	3,170	3.59
文化6年	1809	722	1,291	1,384	2,675	3.70
文化15年	1818	705	1,241	1,260	2,501	3.55
文政2年	1819	712	1,300	1,336	2,636	3.70
文政5年	1822	726	1,371	1,372	2,743	3.78
天保7年	1836	686	1,267	1,305	2,572	3.75
安政5年	1858	708	1,245	1,233	2,478	3.50
万延元年	1860	873	1,412	1,355	2,767	3.17
慶応2年	1866	840	1,386	1,397	2,783	3.31
明治3年	1870	834	1,391	1,367	2,758	3.31

市立図書館にある拙著『近世後期大和国御所町に関する研究』第4章の添付資料をご参照ください。

幕府は、享保6年(1721)以降、6年ごとに人口統計をとることにしましたが、すべての記録が残っているわけではありません。表1の御所町の人口に近い年の、大和と全国の人口を表2に示します(関山直太郎著『近世日本的人口構造』吉川弘文館、1958)。

表2 大和と全国の人口

元号	西暦	大和(人)	全国(千人)
宝暦6年	1756	367,724	26,070
文化元年	1804	340,706	25,621
文政5年	1822	346,319	26,602
文政11年	1828	356,627	27,201
天保5年	1834	360,071	27,063
弘化4年	1847	361,157	26,907

表1および表2を見ると、人口に大きな変化がなかったことがわかります。

人口の変動要因として、出生・死亡、婚姻・養子、引越、家出等が考えられます。人口の変動を調べる場合、前の年と比較する必要がある、連続して残っている宗門改帳で調べなければなりません。連続して残っているのは文化6年(1809)から文化10年(1813)と慶応2年(1866)から慶応4年(1868)です。これらの年のものを調べることにしました。なお、文化期と慶応期では、57年間離れています。

まず、出生と死亡についてみることにします。「出生」について、「出生率」「出生届」等のときは「しゅっしょう」と読まれます。同じ意味で、同じ漢字なのに、なぜ読み方が違うのでしょうか。これは、戦時中に遡るのです。当時、戦争に行くことを「出征」と言いました。それと区別するため、生まれることを「しゅっしょう」と読むように定められたのです。表3に、

表3 御所町の出生・死亡の人数

元号	西暦	出生			死亡			差引		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
文化7年	1810	12	15	27	33	36	69	-21	-21	-42
文化8年	1811	18	14	32	37	34	71	-19	-20	-39
文化9年	1812	20	19	39	37	34	71	-17	-15	-32
文化10年	1813	15	22	37	23	21	44	-8	1	-7
万延元年	1860			35			101			-66
慶応3年	1867	25	18	43	44	48	92	-19	-30	-49
慶応4年	1868	17	19	36	38	21	59	-21	-2	-23
明治3年	1870			40			65			-25

です。ここから自然減の66人を引くと260人の増加ということになります。他の年では、転入と転出の差は大きくありません。なぜこの年に多く転入があったかについてはわかりません。また、この年は、1軒の人数が少なくなっていますので、転入した人たちは小家族であったと考えられます。人口の増減要因として、他村との婚姻および養子縁組があります。婚姻のため町を出た人と町へ来た人の差は大きくないようです。しかし、養子として町へ来た人は多く、最も多い慶応3年には61人、2番目の慶応4年は34人の増加です。これは後述の少子化と関係があるようです。家出があった場合、まず役所に届け出ます。約6ヶ月経過した後、役所の許可を受けて除籍します。除籍した後には帰ってきた場合は、役所に届け出て復籍します。家出除籍は、多い年は20人もあります。

(文責 中井陽一)

御所町の出生と死亡およびその差引をまとめました。この表には、「家数人別増減差引帳」が残っている万延元年(1860)と明治3年(1870)を加えました。表からわかるように、すべての年の人口が自然減になっています。万延元年の「増減差引帳」によると、この年に転入した人は410人、転出した人は84人で、差引326人の増加